

創薬を支える ベンチャーパートナーの役割

グローバルな経験を 日本の人材育成につなぐための論点

創薬力向上のための官民協議会
施策検討・推進部会（第3回）

吉川 真由

ARCH Venture Partners ベンチャーパートナー

公表事例と発表者の実務経験に基づく考察。具体的な制度設計に先立つ論点を示す。

2026年10月30日 | 参考資料

日本発創薬を担う、経験豊富な人材の層を厚くする

日本の研究・開発・経営人材の強みを生かし、世界で企業を育てた経験を次の担い手につなぐ。

01

世界を見据える

日本の優れた科学を、
世界で開発・事業化できる
チームにつなぐ。

02

経験を借りる

グローバルに創業・開発・経
営を経験した人が、日本発案
件に継続して関わる。

03

一緒に担い、育つ

日本側の人材が同じ案件で
判断と交渉を担い、
次の企業を率いる。

着目したいのは、科学・人材・資本をつないで会社をつくる「ベンチャーパートナー」。

ベンチャーパートナー（VP）とは

VCと連携し、経験と協働を通じて築いた信頼を生かして投資先を支える人材。
本資料では、会社づくりを担うVPに着目する。

VC（投資会社）

（例）
科学・案件の発掘・評価
資本・共同投資家
専門家・採用の支援、等

VP（経験者）

科学・案件の発掘・評価
事業化の道筋を考える
経営チームと資本を組む
創業・経営に関わる

創薬スタートアップ

科学者と経営人材が
開発計画と意思決定を担い
企業を育てる

経験者の判断力とネットワークが、科学を会社にする過程を支える。

米国の創薬VCには、企業を育てた経験者が次の会社づくりに関わる公表事例がある。

会社づくりのどの場面で、経験・信頼が生きるか

科学の理解に加え、実際に企業を育てた経験・信頼が、重要な局面での判断を支える。

創業時



科学を 事業計画にする

開発の優先順位を考え、
知財や経営体制を整え、
会社の出発点をつくる。

開発・成長期



必要な人と 資本を集める

経験・信頼をもとに
開発責任者やCEOを迎え、
投資家と対話し、
次の検証の資金を集める。

重要な転機



難しい判断を 共に担う

開発計画の見直しや
提携・経営体制の変更など、
企業の進路を判断する。

経験のある人が継続して実務に関わることに、助言だけでは得にくい価値がある。

科学の挑戦を支える経営と資本

創薬には科学的な不確実性がある。経営体制と資金計画を整えることで、挑戦を支えやすくなる。

サイエンス

最後まで不確実性が残る

薬効・安全性・臨床再現性
仮説検証と中止判断を続ける

マネジメント（人材）

経験者と判断体制で備える

開発・薬事・CMC・事業を統合
重要局面を経験した人が率いる

資金

必要資本を先に設計する

次の価値検証までの資金計画
追加出資者との長期的な関係

VPは経営と資本の経験・信頼を持ち込み、科学の検証が続けられる体制づくりに関わる。

初期推計が示す、創業・資金調達機能の需給差

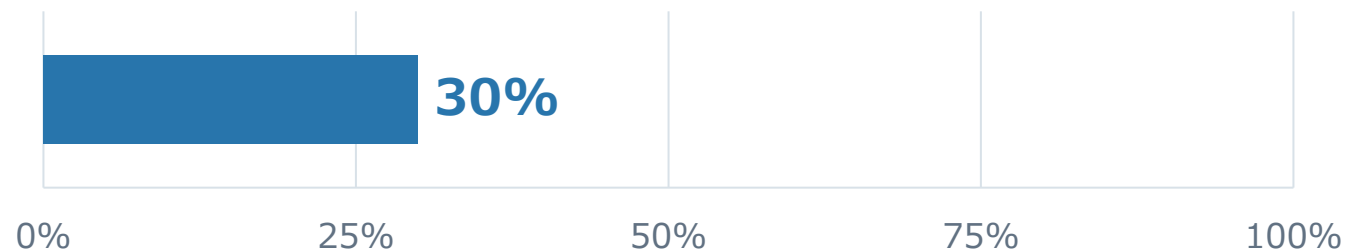
スタートアップの「創業・資金調達」機能について、2025年の需給を対象とした初期推計。

創業・資金調達機能

30%

初期推計の充足率
供給158 / 需要525

推計された需要に対する供給の割合

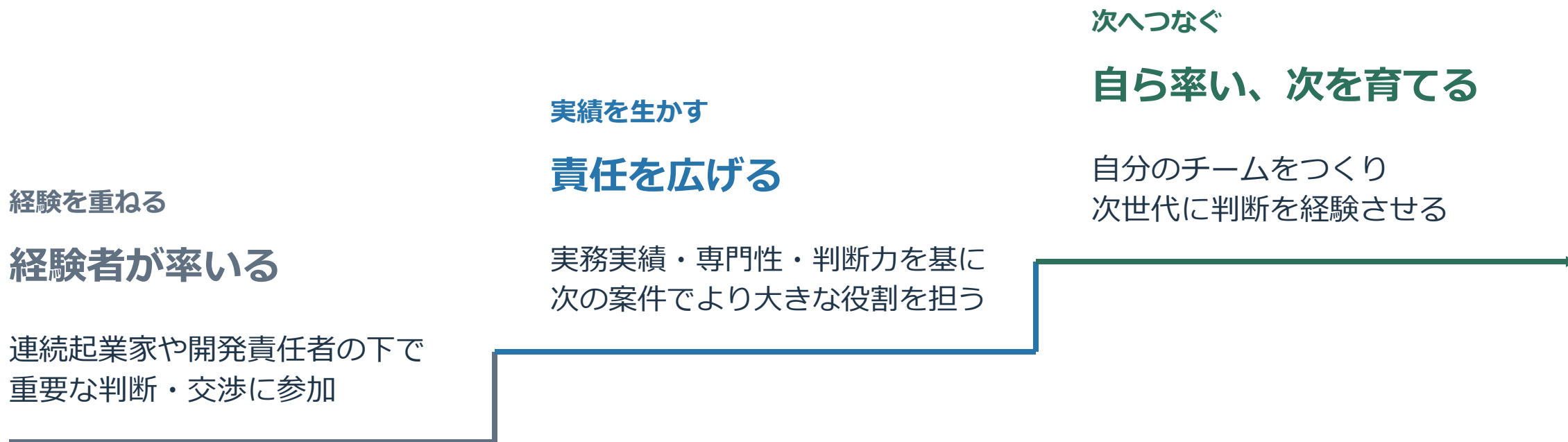


創業・資金調達を担う機能に着目するための参考値。
第1回部会（2026/9/18）資料7「人材」より抜粋。

VPの役割を考える際も、経験者が担う具体的な機能に着目したい。

経験と信頼が、次の会社、経営者、資金につながる

経験者と同じ案件を担い、実績・専門性・協働で確認された判断力を基に、責任の範囲を広げる。



新たな人材にも、実務に参加し、判断と責任を経験する機会を広げる。

日本でも、経験者と共に企業を育てる機会を、継続して増やせないか。

City Therapeutics : 科学と経営経験が集まる会社

RNAi医薬を開発。2026年10月16日にNasdaqで取引開始（CTY）。日本人研究者も共同創業に参画。

科学を担う共同創業者

中西 孝太郎 氏
泊 幸秀 氏

オハイオ州立大学 / 東京大学

両氏は共同創業者・科学顧問として
RNAiの科学的知見を持ち寄る。

紹介する関係者の一部を抜粋。Cityは発表者が所属するARCHの投資先。

創薬企業の立上げ・経営 経験を持つ共同創業者

John Maraganore 氏

共同創業者・Executive Chair

Alnylam創業CEO
(2002-2021年)。
現在はARCHのVPでもある。



研究者の科学と、企業を育てた経験者の判断・ネットワークが、同じ会社集まる。

経験者と、次世代の経営者が共に実務を担える条件

日本人も含め、経験者の継続的な関与と、日本への経験の蓄積を両立させたい。

役割・責任・利益相反	担う業務、経営陣との責任分担、利益相反の管理を明確にする
報酬と継続的な関与	専門性・稼働量に見合う報酬、役割に応じた株式報酬等を検討する
判断・交渉を共に担う	計画・採用・予算・提携の実務に、日本側の人材も参加する
次の担い手につなぐ	経験を振り返り、次の案件でより大きな責任を担える機会をつくる
挑戦する価値のある案件	世界の患者に届く科学、協働できるチームと資本を組み合わせる

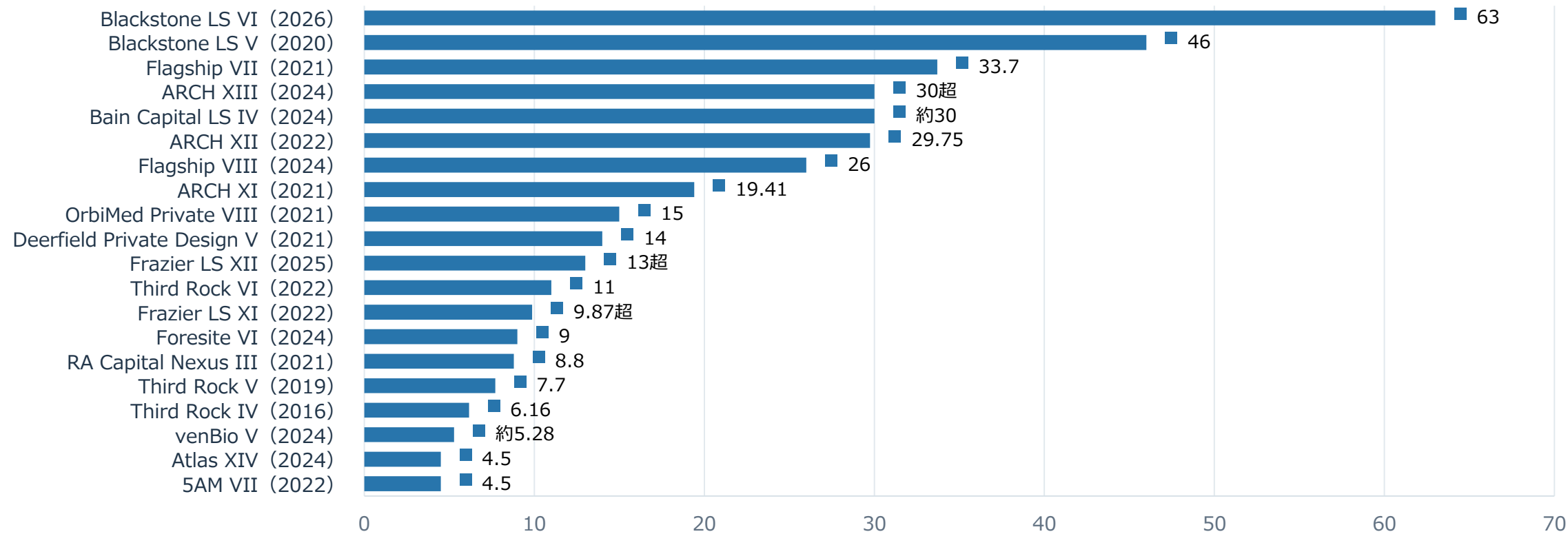
経験者の力を借りながら、日本側に判断の経験と次の担い手が育つ体制を検討したい。

米国拠点のライフサイエンス関連ファンド：募集規模の公表例

2016-2026年に公表された13社・20ファンド。会社創設、開発後期・成長投資等を含む例示。

個別ファンドの募集額（億米ドル）

公表年・投資対象・投資段階は異なる



個別ファンドの公表募集額（名目値）。創薬以外の領域を含み、全額が創薬向けとは限らない。
市場全体・各社の最新ファンド・運用成績の順位を示すものではない。「超」は公表下限値で描画。

出典：各社公式発表・発行プレスリリース。金額の定義とリンクは巻末「ファンドデータの出典」参照。2026/10/25確認。

分配目標を仮定した、ファンドの回収モデル

LPへの累計分配を出資額の3倍と仮定。費用は存続期間全体で総額の20%、成功報酬は利益の20%。



$$350 - (350 - 100) \times 20\% = 300$$

回収額 ÷ 投資額

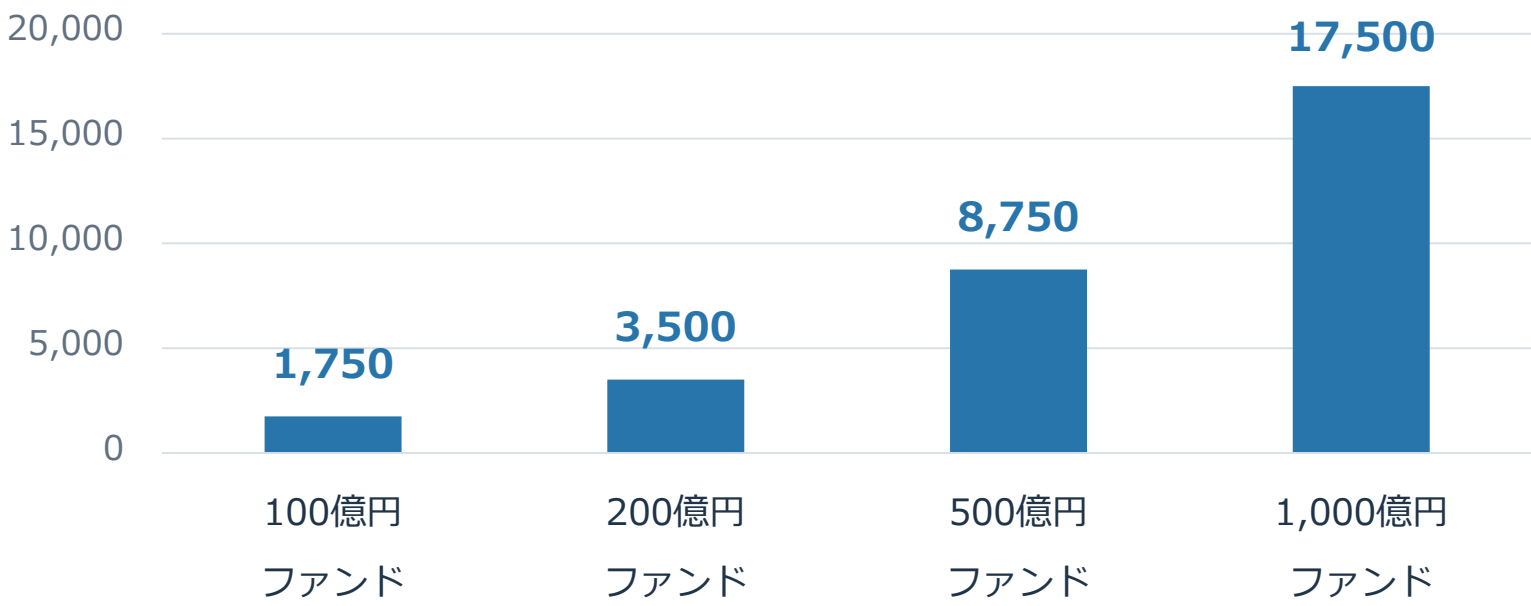
$$350 \div 80 = 4.375\text{倍}$$

この仮定では、投資額の約4.4倍の回収が目標に対応する。一般的な必須条件ではない。

仮定した回収目標に対応する、投資先群の株式価値

前頁の分配目標を使用し、費用控除後を全て創業企業に投資。各社の回収時持分を20%と仮定する。

回収目標に対応する投資先群の株式価値合計（億円）



モデル上の株式価値合計

$17.5 \times F$

$3.5F \div 20\%$
F = ファンド総額

持分を10%と仮定すると
対応する株式価値は2倍

ファンド規模・回収目標・持分の仮定に応じ、対応する株式価値は変わる。

前頁の仮定から計算。各社の回収時株式価値の合計であり、一時点の時価総額・企業価値EV・市場全体とは直接比較できない。

VPとEIR：呼び方と、担う役割

名称・契約形態・権限はVCごとに異なる。案件への関与の仕方を確認することが大切。

VP

Venture Partner

VCと連携し、専門性や経験を
投資先支援・会社づくりに生かす。

例：John Maraganore（ARCH）

EIR

Entrepreneur in Residence

VC等と新しい事業・会社を検討し、
創業や経営を担うことがある。

例：Steven Sweeney（Atlas）

本資料が着目するのは、企業を育てた経験を次の会社づくりに生かす機能。

出典と、資料の位置付け

リンク先の公表情報と、発表者の考察・説明用モデルを区別して記載する。

人材の初期推計（P.6）

第1回部会（2026/9/18）資料7「人材」：2025年需給、2026/6/12時点・未定稿。

[人材資料](#)

[部会資料一覧](#)

Cityの共同創業者・役職（P.8）

公式人物紹介。科学者・経営経験者が同じ会社に参加する事例。

[中西孝太郎](#)

[泊幸秀](#)

[John Maraganore](#)

Cityの上場・投資関係（P.8）

IPO価格決定発表（2026/10/15）、Series A資金調達発表（2024/10/8）。

[IPO発表](#)

[資金調達発表](#)

VP・EIRの役割（P.3・14）

各社人物紹介に基づく例示。名称・職務・契約・権限は運用会社によって異なる。

[ARCH : John Maraganore](#)

[Atlas : Steven Sweeney](#)

P.2・4・5・7・9・13は実務経験に基づく考察。P.11・12は仮定に基づく算術モデル。
P.10のファンド公表額と定義は、次の2ページに記載する。

ファンドデータの出典（1/2）

個別ファンドの募集額（億米ドル）。ファンド名は発行元の発表・公式資料へのリンク。

運用会社・ファンド	公表年	億米ドル	金額・比較範囲の留意点
Blackstone LS VI ↗	2026	63	開発後期・成長投資等、医療機器も含む
Blackstone LS V ↗	2020	46	単一ファンドの最終募集額
Flagship VII ↗	2021	33.7	追加募集後の同一ファンド総額。農業等も含む
ARCH XIII ↗	2024	30超	30億米ドル超。棒は公表下限値
Bain Capital LS IV ↗	2024	約30	外部LPとパートナー等の出資を含む約30
ARCH XII ↗	2022	29.75	Fund XIIの募集額
Flagship VIII ↗	2024	26	本体26。関連サイドファンド10を除く
ARCH XI ↗	2021	19.41	2022年公式発表に記載の2021年募集額
OrbiMed Private VIII ↗	2021	15	Private VIIIのみ。Asia・Creditを含めない
Deerfield Private Design V ↗	2021	14	非上場・上場、幅広い段階を対象

同一運用会社の複数ファンドを含む。全ファンドや最新ファンドを網羅した一覧ではない。

LS=Life Sciences。公表年の名目米ドル。AUM・複数ファンド合算額ではない。募集年・投資対象が異なる例示。

ファンドデータの出典（2/2）

個別ファンドの募集額（億米ドル）。ファンド名は発行元の発表・公式資料へのリンク。

運用会社・ファンド	公表年	億米ドル	金額・比較範囲の留意点
Frazier LS XII ↗	2025	13超	13億米ドル超。棒は公表下限値
Third Rock VI ↗	2022	11	募集完了額。後続ファンドの目標額を除く
Frazier LS XI ↗	2022	9.87超	9.87億米ドル超。棒は公表下限値
Foresite VI ↗	2024	9	医療・ライフサイエンスの多段階投資
RA Capital Nexus III ↗	2021	8.8	Nexus IIIのみ。evergreenファンドとは別
Third Rock V ↗	2019	7.7	Fund Vの募集額
Third Rock IV ↗	2016	6.16	Fund IVの募集額
venBio V ↗	2024	約5.28	公表表現「約5.28」を使用
Atlas XIV ↗	2024	4.5	2024年の会社プレスリリース
5AM VII ↗	2022	4.5	VIIのみ。別のOpportunities 3を除く

「超」「約」は発行元の公表表現。グラフでは「超」を下限値として表示している。

LS=Life Sciences。公表年の名目米ドル。AUM・複数ファンド合算額ではない。募集年・投資対象が異なる例示。